

自然環境保全京都府ネットワーク・きょうと生物多様性センター 共催

きょうと☆いきものフェス！2023 活動発表会

「京都の自然を話そう！京都の自然でつながろう！」

10月8日 9:30 ~ 16:00

京都府立植物園 植物園会館2階 研修室

司会 竹門 康弘（自然環境保全京都府ネットワーク会長）

口頭発表 午前の部

9:30 ~ 9:50

「自然環境保全京都府ネットワーク」について ~開会あいさつにかえて

竹門 康弘 (自然環境保全京都府ネットワーク会長)

9:50 ~ 10:10

西山自然保護ネットワーク・小塩山のカタクリとギフチョウを守る取り組み

中川 光博 (西山自然保護ネットワーク)

西山自然保護ネットワークは、京都市西京区の小塩山(642m)に自生するカタクリと、そこに棲息するギフチョウの保護に取り組むボランティアの集まりです。カタクリは2022年に京都府絶滅危惧種に指定され、ギフチョウは環境省VUかつ京都府絶滅危惧種、京都府登録天然記念物です。当会は、山をかつての里山環境に戻すことと、獣害の抑止を2本柱に、20年以上取り組んで来ました。この取り組みの実際と成果を紹介します。

10:10 ~ 10:30

亀岡の自然を保全するNPOとしての活動紹介

宇野 洋平 (NPO法人 亀岡 人と自然のネットワーク)

我々は亀岡を拠点とし、口丹波地域の歴史、伝統、文化、地誌、野生生物、人の営みを含めた生態環境等に理解を深めるための調査・研究・啓発等の事業を行い、人と自然の調和・共生に寄与することを目的に活動しているNPO団体です。主な活動は国の天然記念物アユモドキの保全活動を行っており、亀岡に住むその他の生き物の生息地保全も地域と協力しながら行っています。今回はこれらの活動を紹介したいと思います。

10:30 ~ 10:50

生き物が好きなボクは、自分にできることから始めました。

片山 耀斗 (京都市立鏡山小学校3年3組)

ぼくは小さい頃から生き物が好きでした。鳥も動物も昆虫も魚も。今は魚が一番興味があり、魚釣りをしたり、魚を観察したり、魚のヒレをコレクションしたり、魚の観察図を作ったり、魚の絵を書いて作品を作ったりしています。ぼくは、この夏コンクールに応募するためヤシャベラという魚についてくわしく調べレポートを書きました。そのことをきっかけに、海の環境を守るためにぼくに、何ができるのか考えはじめました。

10:50 ~ 11:00 休憩

11:00 ~ 11:20

川の恵みを活かすための活動

竹門 康弘 (京の川の恵みを活かす会)

日本では古来より川魚を利用する文化が発達していましたが、1970年代の水質汚染によって川魚を食べる習慣が失われていました。しかし、近年の水質改善に伴い川魚が戻りつつあります。京の川の恵みを活かす会では、淀川水系の魚やエビ・カニ類を増やし、川魚の利用文化を復活することを目指しています。ここでは、そのために行ってきた活動とその成果について報告します。

11:20 ~ 11:40

桂川の魚類を調べて

古田 隼弥 (京都市立嵯峨中学校)

桂川には何種類の魚がいるのだろうか？そのような疑問から小学2年の時にタモ網を持って桂川に通い始め、これまでにたくさんの種類の魚を採集して調べたことを記録してきました。調査したのは渡月橋から松尾橋までのおよそ2 km。短い区間とはいっても、場所により様々に異なった環境が見られ、たくさんの魚がそれぞれの環境に適応してうまく住み分けていることが分かりました。桂川に生息している魚種の多様性を通してこの川の自然の豊かさを紹介します。

11:40 ~ 12:00

自然を楽しみ、自然と遊び、自然を慈しみ、自然を大切に作る仲間になろう

福井 千津 (NPO 法人 自然観察指導員京都連絡会理事)

NPO 法人自然観察指導員京都連絡会の沿革、活動内容、何をめざしていてどんな観察会をやろうとしているのか。取り組んでいる内容として4つのことについて具体的に話をします。

1. 市民向けの観察会(友の会)
2. 自然観察などへの講師派遣
3. モニタリング調査(花脊・中世木)
4. 生物多様性への取り組み (特定外来生物オオハンゴンソウの駆除)
5. 出版活動 (森の新聞など)
6. 会員の親睦交流とスキルアップ

ポスター発表

12:30 ~ 13:30 ポスター発表やパネルほか展示のコアタイム

発表者が展示横にあります。ご自由に討論、交流をお願いいたします。

シカの食害から植生を守る「大原野における植生保全の事例」

丹下 研也・鳥居 万恭 (大原野森林公園 森の案内人)

京の西、大阪府と接する所に加茂勢山、別名ポンポン山(標高 678.7M)があります。この山の北斜面一帯を自然公園として 2000 年 4 月に大原野森林公園が開園されました。

地層には石灰岩の脈が含まれていて、竈ヶ谷を流れる溪流沿いには豊富な草花が自生しています。フクジュソウ、ヤマシロネコノメ、ユリワサビ、イブキセントウソウ等はこの地の早春を代表する草花です。しかし鹿による食害は衰えることなくますます拡大しています。「植生保全」に取り組んできた事例及び今日的課題を提言・交流したいと思っています。

南丹地域における生物調査ならびに Biome を用いた生物種の同定の検討

石田 颯汰・齋藤 央僚・西山 蒼太 (京都府立農芸高等学校 園芸技術科 生物工学コース)

京都府立農芸高等学校は、南丹市の山間部に位置しており、周辺では農業が盛んに行われています。持続可能な農業を実現するには農業を取り巻く環境について調査する必要があると感じ、調査を通して生物多様性や生態系とは何かを考えようと思いました。そこで、生物工学コース動物班では、農芸高校付近の本梅川周辺や校内で生物調査を行っています。調査には Biome を用いて、生物種の同定に利用しています。また、発見した場所をアプリ内の地図で登録することにより、iPad 上で様々な人との情報共有を行ってきました。その結果をまとめ、発表します。

やましろ里山の会活動 28 年のあゆみ

山村 武正 (NPO 法人 やましろ里山の会)

本会は 1996 年に発足、自然を大切に、大切にするには人の力が必要なので人の輪を大きくするという二つを目標にかかげています。木津川（八幡から加茂まで 24km！）の植物調査、希少種保全、里山農園の拡充、治水の伝統的工法を利用した中聖牛と竹蛇籠の木津川への設置などの様々な活動、観察会や川遊びの会も続けています。おかげさまで、2004 年から毎週木曜正午更新の「週刊ニュース」も 2023 年 9 月 28 日に 1000 号発行を迎えました。記録すること、継続することの大切さについてお話しします。

野の鳥は野に

中村 桂子 ((公財)日本鳥類保護連盟 KYOTO)

鴨川で野鳥の観察会を 23 年間続けています。当初、観察できた鳥種と昨今の鳥種を比べると、ごくごく普通に観察できた野鳥が見られなくなったり、こんな鳥がどうして・・・と思えるような鳥が観察会に顔を出したりしています。これらは環境の変化ではないでしょうか。餌に問題があると思われれます。野鳥が食べる餌には昆虫、植物、魚介類があります。餌になる生きものの予想外の変化によるのではないかとされていて仕方がないのですが・・・。

口頭発表 午後の部

13:30 ~ 13:50

京都自然系博物館誘致と旧学校舎の活用

森 豊彦 (人と自然の共生ネット)

京都府立自然系博物館の設立を望む声が高まりつつある。そこで、どうしたら博物館の設立がより早く、より経費が少なく、より府下の広域に貢献できるかを検討した。人、自然、歴史が優れた京都府の財産を府民だけのためだけでなく、世界に発信して連携できる施設を目指す。従来の展示と標本保管中心の博物館から脱却し、自然を素材とした芸術、音楽、観光、子育ての遊び場等の機能を取り入れた自然と融合した博物館を提案する。

13:50 ~ 14:10

乙訓の自然はおもしろい。8つのホットスポットを紹介

宮崎 俊一 (NPO 法人 乙訓の自然を守る会)

乙訓（おとくに）地域は、京都市の南西に位置し、600m級の西山連山は薪炭林の山として利用されてきました。すそ野と平野部は、近年は都市化が進んでいますが溜池や田畑が広がっており、また桂川には河畔林や草場が残っています。こうした環境に多様な生き物が生育しています。私たち乙訓の自然を守る会はこの環境を保全しながら生物多様性を守っていくことを掲げ、多くの市民や環境団体とともに努力しています。

14:10 ~ 14:30

未来を創る地域探究！ ～人や自然との出会いが教えてくれること～

日下和羽・徳田孝一郎・西原幸佑・真下大護 (京都府立宮津天橋高等学校 フィールド探求部)

私たちは「地域で科学、地域を科学」をモットーに、絶滅危惧種の保護や生物相調査など、多様な活動に取り組んでいます。特に、学校近隣の大手川では、3年前から全部員で生物調査や環境づくりを行ってきました。改修工事が川的环境や住民意識に与えた影響を調査するとともに、放置されていた親水公園の再生に挑みました。また、今年の夏には子供向けの川イベントを開催するなど、市民と自然の接点を作ろうとしています。

14:30 ~ 14:40 休憩

14:40 ~ 15:00

日本野鳥の会京都支部の活動紹介と京都府立植物園の鳥類相

船瀬 茂信（日本野鳥の会 京都支部）

日本野鳥の会京都支部は、1936年（昭和11年）の発足以来、愛鳥精神の普及や野鳥の保護に取り組んできました。現在、約800名の会員を擁し、年間100回以上の探鳥会（バードウォッチングを楽しむ会）を開催するほか、タカ渡りカウント調査、芦生鳥類相調査、ガンカモ類の生息調査、鳥獣保護区鳥類相調査、京都府立植物園鳥類相調査などの調査活動、鴨川のチドリ類保護活動なども行なっています。

15:00 ~ 15:20

捨てなくて... カブちゃんからの贈り物

矢野 翔大（京都市立西院小学校3年）

僕は、2歳10ヶ月まで生き物が全く触れませんでした。その後、カブトムシイベントで2ペア（4匹）の成虫を持ち帰って飼育したのがきっかけで、今では100種類以上の昆虫、カブトムシは9世代目まで命を繋げました。

カブちゃん飼育中、幼虫が出す大量の〇〇を捨てずに、何かに役立てられないか研究をして6年。ついに、2023年その目標に一步近づきました。

その〇〇とは。失敗続きの研究で、昆虫や生き物から学んで僕が成長したことを発表したいです！

15:20 ~ 15:40

深泥池生物群集の現状と課題

竹門 康弘（深泥池水生生物研究会）

深泥池は日本で唯一生物群集全体が国の天然記念物に指定されている希少な池です。しかし、深泥池の生物群集は、これまで水道水の流入や外来動植物の影響によって大きな影響を受けてきました。深泥池水生生物研究会は、1997年以来外来魚の駆除や植生管理などの保全活動を継続してきました。本講演では、それらの活動内容を紹介するとともに、深泥池生物群集の現状と課題について報告します。

15:40 ~ 16:00

「なるほど・ザ・雲ヶ畑」への深化を

西野 護（雲ヶ畑・足谷 人と自然の会）

会の例会活動は、「観て楽しむ」「歩いて楽しむ」「作って楽しむ」「食べて楽しむ」「わかって楽しむ」などを柱に構成されます。8月は「カラスザンショウの採蜜体験と賞味の会」。「とるに足りない無用の木」からサラッとしてコクのある蜂蜜が採れるとは！驚きは次なる課題を生み新しい自然認識を生み出すのではないかと。楽しみを通じて「なるほど・ザ・雲ヶ畑」への深化を。楽しみと理解を広げる会の取り組みを紹介します。

16:00 エンディング

（自然環境保全京都府ネットワーク・きょうと生物多様性センター）

自然環境保全京都府ネットワークとは

京都府に自然史博物館を設立する機運を高めることを目的として、2017年から府内各地の自然環境保全に関わる市民団体が集まって活動している組織です。

- 1) 各地団体の交流会
- 2) 近隣府県の博物館視察
- 3) 京都府レッドデータブック勉強会
- 4) 総会に併せた講演会開催

などを定期的実施しています。

「きょうと生物多様性センター」が目指している生物多様性情報のプラットフォーム整備に向けて、動植物相調査や標本作成、情報のデジタル化などに協力ができる体制づくりを行なっています。

京都府に自然史博物館が設立されるまでに、まだまだ長い年月が掛かることは確実と思われませんが、それまでにも本ネットワークは、生物情報の蓄積や利用の仕組み作りや生物の生息地を保全継承するための地域活動をアシストする役割を担っていく所存です。

随時会員募集を行っています。団体会員と個人会員の制度があります。

詳しくはホームページ <https://ncknet.com/> をご覧ください。

お問い合わせは、natocons.kyoto.network@gmail.com へ

